



2025.10.7

園長だより NO117

長い長い夏が終わりをつげましたが連日、30度近い気温になります。ここ2週間は戸外で遊ぶ機会が増え、子ども達の表情もより穏やかになり戸外遊びを楽しんでいます。

今月中旬に4歳児、5歳児の運動会があります。私個人は運動会のような会と銘打つきます。運動会に向けたものをしゃかりきに取り組んでいるわけではなく、あくまでも生活の核は子ども達の遊びであり、遊びをおろそかにしてまで競技や演技に取り組みさせてはならないと考えます。日常の子ども達の遊びを大切にしつつ、この時期、身体的な運動を開放的にやる機会を無理なく設けています。

運動会とは昔から使われていう名称ですが身体を動かす会でもプレイ day でもいいわけです。

子ども達の生活を見直して

コロナ禍中になった時、感染防止対策を講じながら、多くの園が行事の在り方を見直していました。

教育中心と言い、大人主導の教え込みを行っていた園に変化が見られました。大きな行事に向けて、活動は練習、練習の日々を送っていた園もあるはずですが。成果主義に傾き、教え込みに走っていた保育、教育内容に新型コロナウイルス感染症は待ったをかけたことになりました。

大人主導の教え込み、成果主義に偏って

た保育内容を子ども主体の内容へと変化させている園がコロナを起点に増えていきました。

おおぞら保育園は10数年前からこども主体の保育に転換するために園生活、行事を見直しています。乳児では特にそれぞれに合った育児行為をするように心がけ実践してきました。運動会も見栄え重視又しっかり統率をとる等ということは少しも考えず、今、目の前の子ども達の育ちに応じた内容で取り組んでいます。

↓ 以下は数年前の取り上げた内容を一部引用

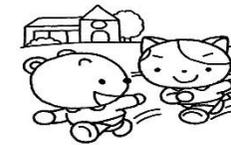
— ある保育園の園長のブログより—
静岡にある保育園の園長ブログの内容です。運動会のお話、多くの園(保育園)で恒例に行っている行事についていつも不思議に思うことがある。それはコレが何の会かということ。文字通り考えれば運動する会なのだけれど意外とそうでもありません。

色々な園のソレを見たことはないけれども話に聞くスタンダードは1歳児くらいから全園児が参加し午前中に実施するというもの、そうすると、たくさんの種目を短時間に詰め込むこととなり子ども達は運動するより遙かに長い時間待つて過ごすことになります。ともすれば1年の園生活で最も運動量の少ない日。運動会なのに、いつもより運動しない会になってしまいます。

それに、です、この行事の育ちの可視化、つまり保護者の方に子ども達の成長を見せる機会として位置付ける園が圧倒的に多く、それは保育者(保育士)が子どもを強く主導するこ

とを意味します。絶対に、そうなります。もっと簡単に言えば運動会の練習に多くの時間を費やすということです。派手なダンスや統率のとれた太鼓、そして競争が日常の大半を占めるようになります。この時期に幼児クラスの担任の声がかれているのはその結晶です。と述べています。

投稿はとても力が入った文章ですが大きく誇張しているわけではなく、子ども主体の保育を実践している園(園長)からすれば違和感を感じ、子ども達の育ちに応じた適切な内容を考え取り組んで欲しいという願い(要望)に他なりません。



(投稿の続きです)

私たちが運動会に期待するのは友達と一緒にする運動が、少しだけ楽しくなる機会となることです。運動会は目的ではなくきっかけであるべきだと考えています。だから対象を幼児だけとし、プログラムも親子で楽しむものや玉入れ等過度な運動を必要としないものを中心としているのです。

(中略)

幼児期には競争心より育むべき感情があって、それが共同心であり協調性なのだ強く思います。これらは成熟した社会的な感情では自然に育ちにくい、だからこそ運動会のテーマとする意義があるのです。

あ、でも練習しないわけではありません。

それで日常の遊びを犠牲にしないというだけ、ぜひこの視点で運動会を楽しんで下さい。

そして、くどいようですがもう一度いいます。運動会は目的ではなくきっかけ。大切なのは翌日から子ども達が何かに関心を持ち、どのような活動をするかなのです。発達は日々連続しているのだから。(終)

改めて読んでも歯に衣きせずズバツと切り込んだ内容と感じます。

それぞれの園、それぞれの保育者には様々な考えがありますが投稿を読み賛同した保育者は少なくありません。おおぞら保育園の保育の在り方にも相通じる部分もあります。

運動会は何のために行われているのか？
運動会は誰のために行われているのか？
運動会の意味合い(活動の持つべき意味)を再考することを毎年、考えていかななくてはなりません。

運動会が日常の子ども達の遊びや生活に位置づき子ども主体の生活(子どもが主役)になる行事になることを望んでいます。

時代の変化と共に社会も変化する、保育内容も変化することを否めませんが子どもが園で暮らしているという思いをしっかりと持ち、子ども達の主体的な取り組みを工夫し、つくりだしていきたくと思っています。

まずは子ども達と共にいきいきとのびのびと身体を動かし遊び込める環境があることが必須の条件です。

(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)

